総合的な学習の時間

指導案

日　時　令和元年１１月１３日（水）
児　童　４年１組　男子１３名　女子１３名　計２６名
授業場　４年１組教室
授業者　齋　　慎　之

１．単元名「守ろう，豊かな『釧路の水源』」

２．単元の目標

自分たちが使う水道水や水源について調べる活動を通して，情報同士を比較したり分類したり関連付けたりしながら自分たちの生活と水道水の密接な関係や水源涵養林について理解を深め，地域社会の環境保全に進んで関わっていこうとする態度を養う。

３．単元観・児童観・指導観

本単元は，小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）総合的な学習の時間編の内容「第２の３（４）」における「目標の実現にふさわしい探究課題」として，「身近な自然環境とそこに起きている環境問題」を取り上げたものである。

児童は，これまでに「桜ヶ岡附属南町内会」を関わる主たる対象とし，その「活動の具体や目的」を調査することを通して，それに関わる人々やその思いなどにも触れながら，「よりよい地域のまちづくり」と「そのよさや難しさ」，「自分と地域との関わり方」を考えてきた。この学びを通して，目的に応じた調査活動や課題意識をもって探究活動を行おうとする態度，地域のまちづくりに進んで関わっていこうとする心情や態度が育まれてきている。

本単元における主たる対象は，「前田一歩園財団が管理する保安林」と「その地域に流れる白湯川の水源」である。この保安林は，児童が２年前から毎年触れ合っている身近な自然環境である。児童が本対象に出合うまでに，「水はどうしてなくならないのか」という疑問を主軸としながら，「コンクリートダム」や「釧路湿原」など様々な視点から「水」という対象を捉えていくようにする。このように，様々な視点から対象を捉えたり捉え直したりすることで，児童がそこに存在する問題事象を見いだしたり，自らの思い（原動力）を高めたりしながら課題解決に没頭できるようにする。

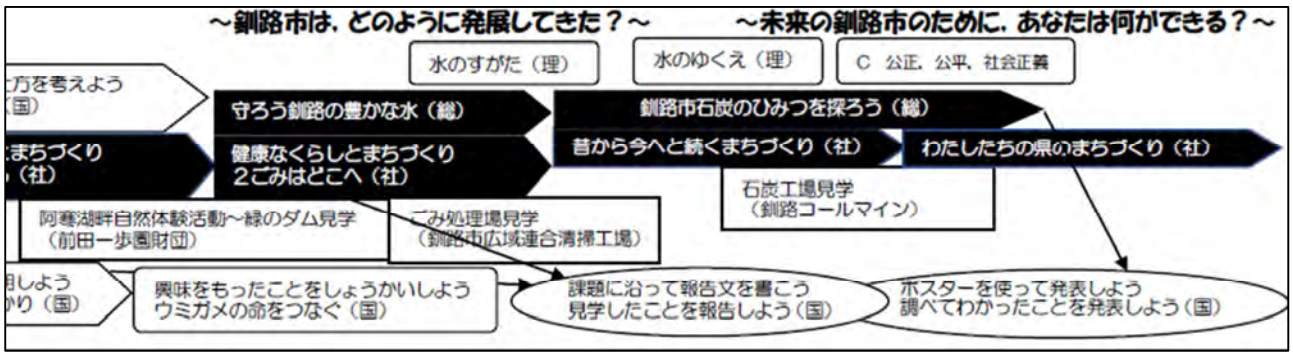
課題解決のために必要な情報を収集する段階において，収集方法や視点に幅をもたせることで，個々の情報に「不足」が生じるようにする。そうすることで，児童は自らのもつ情報を補完すべく，自然と他者（のもつ情報）との「繋がり」を求めるようになるはずである。

その際，教師が適切なタイミングで関わり，児童の気付きの段階に応じて「情報の繋がり」を視覚化し共有することで，情報同士の比較，分類，関連付けなどの整理・分析を通して課題解決に近付くことができるようにする。 **手立てⅠ**

また，「他者の情報や解決方法（強みやよさ，特徴）」を自己の課題解決に生かすことができた段階で，「なぜ，それを課題解決に生かそうと考えたのか」，理由や意図を交流する場を設定し，情報や解決方法（それを収集したり導き出したりした自己や他者を含む）の価値に気付くことができるようにする。 **手立てⅡ**

このような探究のプロセスを通して，児童の「水がいつまでもあり続けるために，自分たちにできることは何か」という思いを徐々に引き出しながら，「自分と地域社会との関わり方」について考えたり，「地域社会の環境保全」に進んで関わったりしていこうとする態度を養っていく。

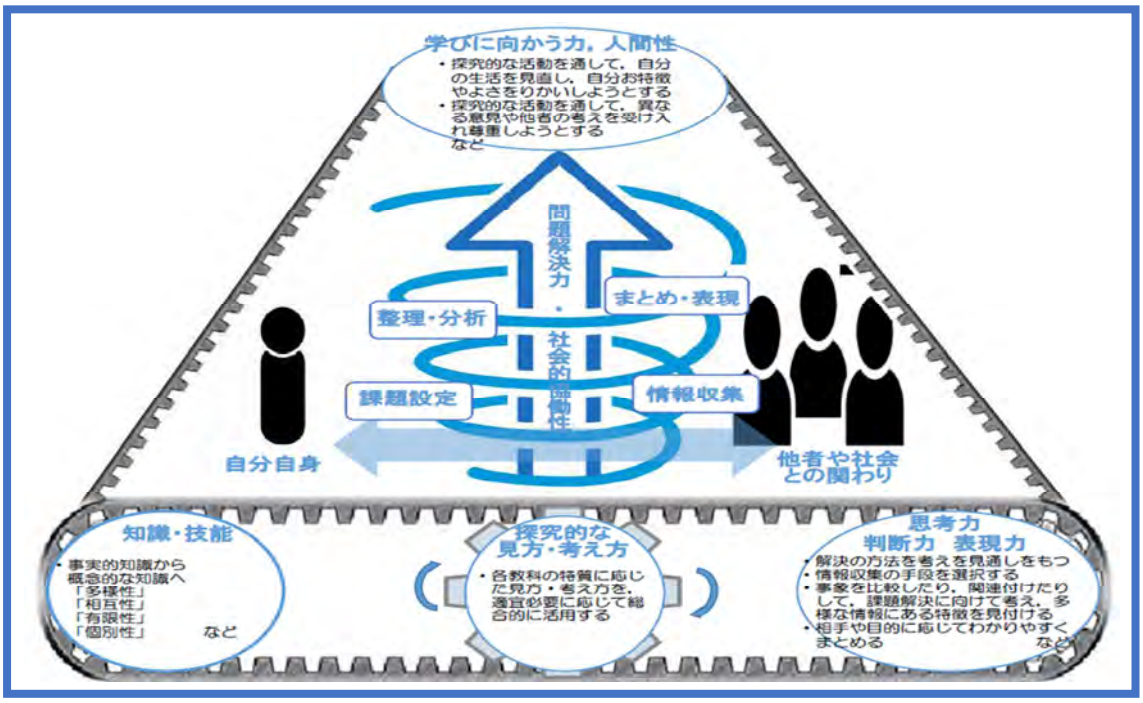
４．学年・学級経営年間プログラムとのかかわり



本パッケージは，地域の未来への協働的参画意識を高め，よりよい地域の在り方について表現する資質・能力を養っていくことをねらいとしている。そのために，パッケージの過程にある本単元では，「２」のような子供の姿を引き出していく。本単元を迎えるまでに，社会科の学習において，身近な地域の「事故を防ぐ仕組み」や「災害からまちを守る仕組み」を調査する活動を核としながら，適切な情報収集の方法を選択する中で「地域の発展に関わるひと・こと・もの」に触れさせていく。また，国語科の学習において，「情報の要点」や「情報同士の相互関係」へ着目するよさを学びながら，情報を整理・分析する力を育みつつ，収集した情報から「社会的事象の相互関係」に気付かせていく。このような学習を経て，地域の未来への協働的参画意識が徐々に高まっていくようにプログラムを編成している。

５．単元を通して育むリーダーシップ・フォロワーシップに関わる資質・能力

本単元において育む「問題解決力・社会的協働性」の具体は，子供が「問題事象から課題を見いだし，課題の解決に向けて，『自ら』他者（の情報や解決方法）とのつながりを求めながら，よりよい課題解決の方向性を決定付けていく」姿のことである。例えば，様々な視点から「水」という対象と関わると，個々が収集した情報には不足が生じ，「水がいつまでもあり続けるために」という課題に対して，それのみを根拠にして結論を見いだすことは困難となる。その際，教師がそれぞれの情報を視覚化し共有化を図ることで，子供は「自然と」他者の情報を比較・分類・関連付けなど思考を通して「繋がり」を求め，よりよい課題解決に向けて学び合い，結論を出そうとするようになる。この「**よりよい課題解決に向けて『自然な』他者とのつながりを求める態度**」を本単元では重点として養いながら，「問題解決力・社会的協働性」を育成していく。



６．評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア　緑のダムには，保水機能や水量の調節機能があることや，豊かな自然が水源を守っていることを理解している。 イ　解決したい課題に沿って資料を読んだり，人に聞いたりしながら適切な言葉や分量で記録している。	ア　課題解決のために情報収集の手段を選択したり，目的に応じて必要な情報を選んだりしながら収集している。 イ　情報同士を比較したり分類したり関連付けたりしながら整理し，「水源の確保」と「自然環境の保全」について考えている。 ウ　相手や目的に合わせて，「水がいつまでもあり続けるための方法」についてわかりやすく表現している。	ア　水源の場所や水源と自然環境との関係について課題意識をもちながら探究活動に取り組もうとしている。 イ　自分と異なる意見や考えのよさを生かしながら，よりよい課題解決に向けて学び合おうとする。 ウ　「地域社会の環境保全」との関わりの中で，自分のよさに気付いたり自分でできることを見付けたりしようとする。

７．単元計画

時数	○主な学習活動	評価の観点 知	思	主	学び合いの過程　手立て
1	○社会科「水はどこから」の学習を想起しながら，釧路地区が水不足にならない理由について交流する。 **どうして水はなくならないの?①**			ア	**手立てⅠ**（２・３時間目） ・教師が用意した資料に不足が生じるようにしたり，調査活動の視点を個々に明確になるように働きかけたりすることで，他者のもつ情報との繋がりを求めることができるようにする。
2・3	○釧路地区で水不足にならない原因について自分なりの予想を立て，必要な資料を用いて情報を収集する。	イ	ア		**手立てⅠ**（４時間目） ・収集した情報同士の繋がりを視覚化し共有することで，情報同士の比較，分類，関連付けなどのきっかけをつかむことができるようにする。 **手立てⅡ** ・自己の強みやよさに気付くことができるように，生かそうと考えた情報や解決方法とその理由を問うた後，自分のそれとの比較を促し，自分の情報や解決方法のよさを見つめ直す時間を保障する。
4	○収集した情報を交流し，なぜ水はなくならないのか，現段階での結論を出す。 ○「疑問が解決したか」や「解決するために調べる必要があること」などを交流する。		イ	イ	
5	○釧路川の水源は何か，について予想し，交流する。 **どうして水はなくならないの?②**			ア	
6	○釧路や阿寒周辺の地図を用いながら，釧路川と阿寒川の水源を探ったり，水源に何があるのかについて交流したりする。		ア		**手立てⅠ**（7～12 時間目） ・調査活動の視点を個々に明確になるように働きかけることで，他者のもつ情報との繋がりを求めることができるようにする。
7～12	○阿寒湖畔での調査活動を通して，川の水源や，川に辿り着くまでの過程について情報を収集する。	イ	ア		
13	○収集した情報を基に，水源と川の様子，周りの自然環境について共有し，なぜ水はなくならないのか，現段階での結論を出す。 ○「もし，釧路で水不足や洪水が起きるとしたら，原因は何か」について交流する。		イ	イ	**手立てⅠ**（13 時間目） ・収集した情報同士の繋がりを視覚化し共有することで，情報同士の比較，分類，関連付けなどのきっかけをつかむことができるようにする。 **手立てⅡ** ・自己の強みやよさに気付くことができるように，生かそうと考えた情報や解決方法とその理由を問うた後，自分のそれとの比較を促し，自分の情報や解決方法のよさを見つめ直す時間を保障する。
14	○「これからも釧路の水源を守り続けていくためにどうするか」について交流する。 **水源をこれからも守り続けていくために?**			ア	
15・16	○守り続けるための方法について見当を立てる。 ○個々が考えた視点をもとに，それぞれの情報を収集する。	イ	ア		**手立てⅠ**（15・16 時間目） ・個々が考える「水がいつまでのあり続けるための方法」を立証する情報の調査方法や視点に幅をもたせることで，他者のもつ情報との繋がりを求めることができるようにする。
17 **本時**	○収集した情報を基に，水源をこれからも守り続けるための方法について交流する。 ○「疑問が解決したか」や「解決するために調べる必要があること」などを交流する。		イ	イ	**手立てⅠ**（17 時間目） ・収集した情報同士の繋がりを視覚化し共有することで，情報同士の比較，分類，関連付けなどのきっかけをつかむことができるようにする。 **手立てⅡ** ・自己の強みやよさに気付くことができるように，生かそうと考えた情報や解決方法とその理由を問うた後，自分のそれとの比較を促し，自分の情報や解決方法のよさを見つめ直す時間を保障する。
18～20	○「自分たちが調べてきたこと」や「自分の見いだした考え」を，誰に伝えることが有効かについて交流する。 ○相手に応じた表現様式で，情報や考えを整理し，まとめる。		ウ	ウ	
21	○単元を振り返り，今後，自分（たち）がどのように地域社会の環境と関わっていくかについて交流する。			ウ	

８．本時案

(1) 本時の目標

「釧路の水源を，これからも守り続けていくために」という課題について議論する活動を通して，情報同士を比較したり分類したり関連付けたりしながら整理し，よりよい課題解決に向けて学び合いながら「水源の確保」と「自然環境の保全」について考えることができる。

(2) 本時の展開（17／21）

学習活動　児童・生徒の姿 ○教師の働きかけ・発問（△補助発問，□指示・説明）手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
１．前時までの学習を振り返り，本時の学習の見通しをもつ。 ・前の時間までは，「水源を守り続けるために」どうしたらいいのか，考えを書いたり，必要な情報を調べたりしてきたね。 ・いくつかある方法の中で，守ることができる可能性が一番高いものはどれなのかな？ **釧路の水源を，これからも守り続けていくために?** **２．収集した情報を基に，課題について考えを交流する。** **○個々の情報を共有できるように，必要に応じてそのような考えに至った理由を問いながら，情報や考えを板書し視覚化する。** 天然林は，日本の森林の６割を占めているらしいよ。こんなにたくさんあるなら天然林を守ることがいいと思う。 人工林は，人が手入れをすれば必ず育つらしいよ。苗木もたくさんあるから，どんどん植えた方がいいよ。 湿原の減少は，人が森を伐採したり土地の開発をしたりするところから始まっているみたいだよ。 でも，天然林は減少し続けていて，世界遺産で守られているけれど，管理しないと未来に残らないみたいだよ。 たくさん植えるのはいいけれど，手入れが行き届いてないらしいよ。育たなければ土砂くずれの被害が出るよ。 ダムを造るには，森林を切り拓く必要があるみたいだね。森にも，生き物にもいい影響はないかもしれないね。 **○情報を視覚化しながら，適切なタイミングで情報同士の関連や矛盾点，共通点を問う。Ⅰ** それぞれ実現可能だと考えた情報と，困難さがあると考えた情報が集まってきたよ。このまま言い合っても答えは出ないから，情報を見ながら分析してみよう。 木を伐採すると湿原は減少していくし，コンクリートダムを造ると周りの環境に悪い影響が出るし・・木を植えても手入れが大変だし・・どれが一番とは言えないね。 どの情報にも，「森林を伐採する」ことや「人が手入れをする」という情報が共通しているよ。この２つにつながりはあるのかな？ 人工林は，資源のために人が伐採しなければならないね。天然林も，結局，人が管理しないと守れない。湿原やダムも，森林を伐採する代わりに，人が自然を守る活動をしているね。 釧路の水源を，これからも守り続けるためには，どの方法で森林を伐採にするにしても，その後に，どうやって人が関わっていくかが大切なんだね。 **３．交流を振り返り，自己の考えや考え方を見つめ直す。** **○課題に対しての自分の考えを問うた後，自己と他者との情報（や解決方法）の比較を促し，自己のそれらのよさを見つめ直す時間を保障する。Ⅱ** 釧路の水源を守り続けるためには，人がどのように関わっていくのかが大切だね。ぼくは，天然林を守ることが大切だと思うから，～～ということをできるかもしれないな。 △△さんの，人の手で手入れをしないと育っていかない，という情報が参考になったよ。 私は～を守ることが大切だと思っていたけれど，□□君が共通点のつながりを発見してくれたから結論を出すことができたよ。 **４．次時の学習の見通しをもつ** **○見いだした考え（結論）を十分に価値付けた後，誰にこれらの情報や考えを伝えることが有効かを問う。** ・阿寒の山本さんに伝えた方が，いろんな人に情報が伝わるんじゃないかな。 ・次の時間は，自分の情報や考えを誰に伝えるべきか決めよう。	▲必要に応じて，教師との対話を通して，それぞれの情報の共通点を問うことで，水源を守るためにはどのように人が関わっていくかが大切であることに気付くことができるようにする。 【主】 ◇自分と異なる意見や考えのよさを生かしながら，よりよい課題解決に向けて学び合おうとする。 【思】 ◇情報同士を比較したり分類したり関連付けたりしながら整理し，「水源の確保」と「自然環境の保全」について考えている。 △▲交流を通して学級としての考えを見いだすことができたことや，自分の考えを見つめ直すことができたことを十分に価値付ける。